

対馬丸記念館で平山誠一さん（元中央執行委員）が講演②
沖縄で平和な海を希求する

沖縄県の対馬丸記念館で、戦後 80 年企画展が開催され、全日本海員組合・関西地方支部内に開設されている「戦没した船と海員の資料館」も協力団体として参画し、6 月 21 日（土）に、本組合の元中央執行委員の平山誠一さんが「戦没船を記録すること」を講演した。

講演を聞いて・コメント 柴田哲也沖縄支部長

講演では戦没船に関することや当時の船員が強制的に戦争に巻き込まれていたことと、現在の世界情勢を照らし合わせると船員はいつ戦争に巻き込まれることになるか非常に不安な一面があるなどのお話が印象的でした。戦時中と現在を比較しながら「戦後 80 年を迎える今でも世界各地、日本周辺海域の争いごとに船員は巻き込まれる可能性がある。日本という国は海上輸送がなければ成り立たないことを一般の方々にもわかってほしい」との言葉に、世界中の海上を航行する船員職業の特殊性と立場の難しさを実感しました。

また、沖縄には対馬丸記念館のほか、「沖縄県平和祈念資料館」「ひめゆり平和祈念資料館」があり、海員不戦の誓いに通じるものがありますので、ぜひ訪れてください。

「海員だより」